

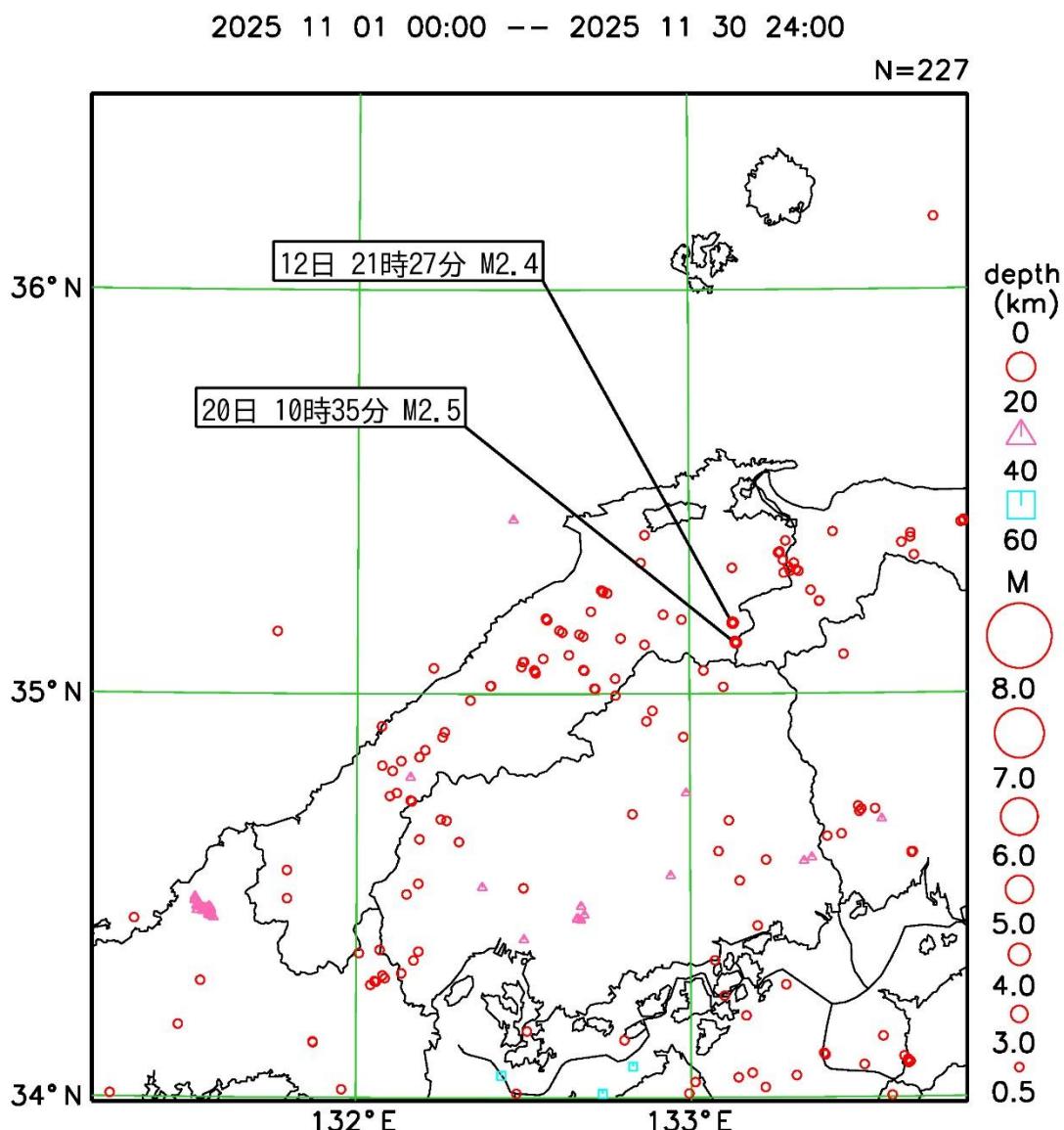
# 島根県の地震

令和7（2025）年11月

- ・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。  
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

## 島根県およびその周辺地域の地震活動 2025年11月1日～30日



### [概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は227回（10月は224回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、3回でした。

12日21時27分 島根県東部の地震（深さ8km、M2.4）により、奥出雲町で震度1を観測しました。

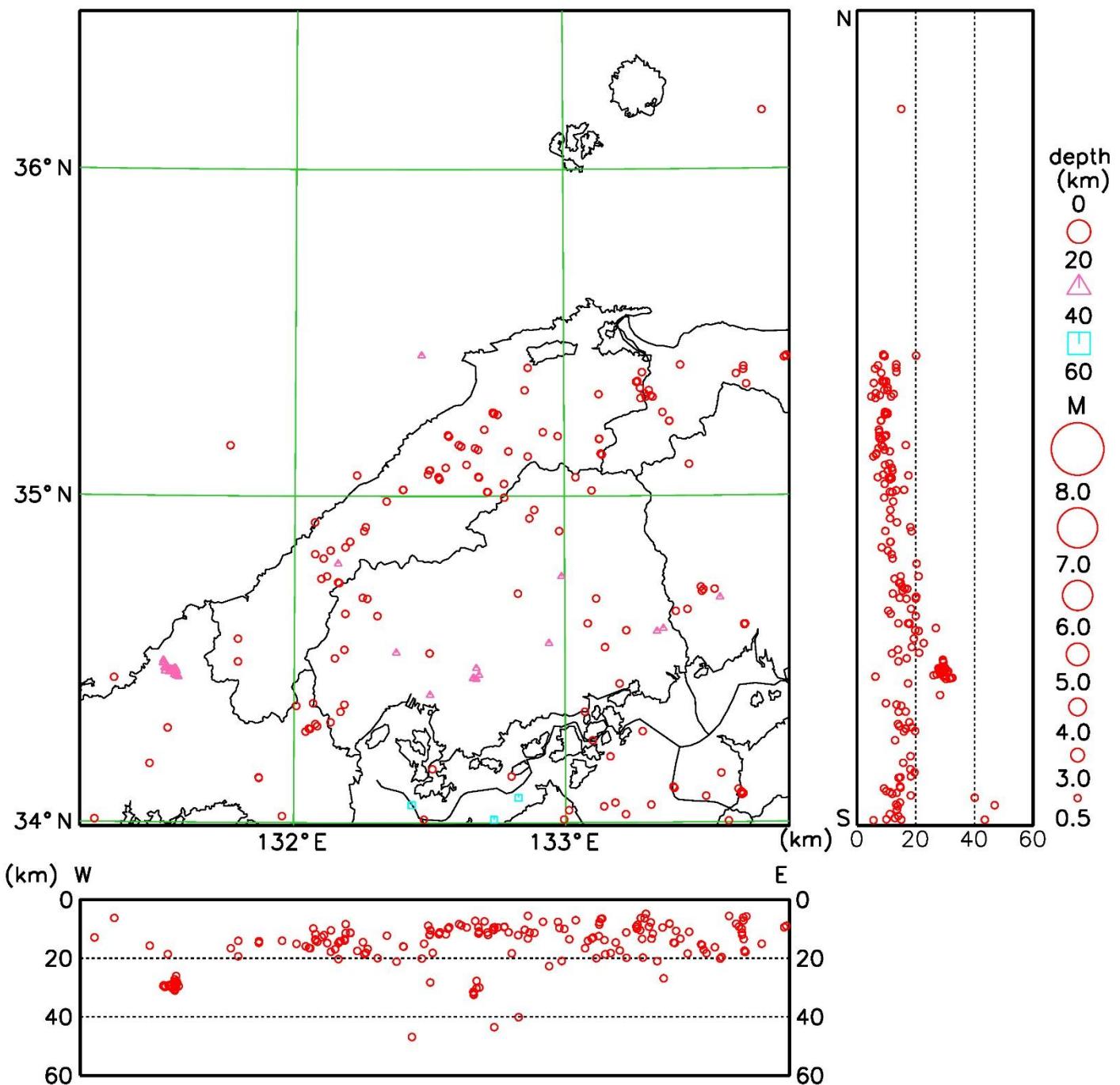
20日10時35分 島根県東部の地震（深さ6km、M2.5）により、奥出雲町で震度1を観測しました。

また、広島県で震度1を観測しました。

25日18時01分 熊本県阿蘇地方の地震（深さ9km、M5.8：地図範囲外）により、出雲市・浜田市・益田市・大田市で震度1を観測しました。また、熊本県産山村で震度5強を観測したほか、近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度5弱～1を観測しました。

## [断面図]

2025 11 01 00:00 -- 2025 11 30 24:00



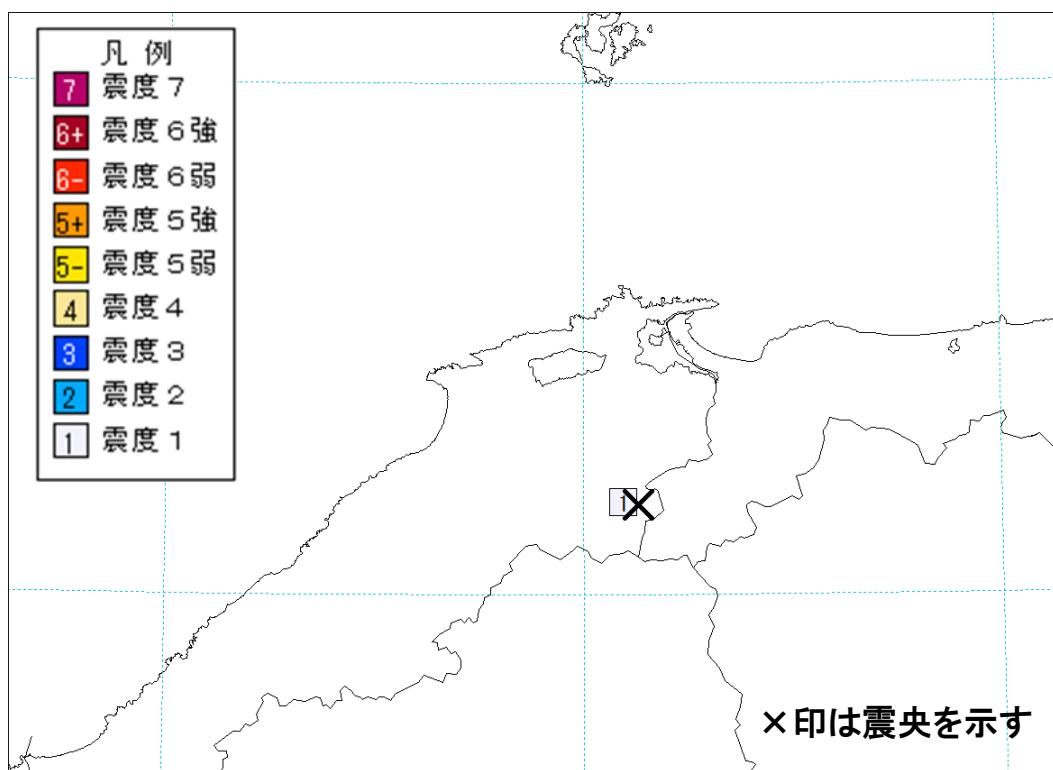
## 11月の島根県内の地震表（震度1以上）

発震日（年月日時分）	震央地名 各地の震度（島根県内のみ掲載）	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2025年11月12日21時27分	島根県東部 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：奥出雲町横田*	35° 10.5' N	133° 07.8' E	8km	M2.4
2025年11月20日10時35分	島根県東部 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：奥出雲町横田*	35° 07.6' N	133° 08.4' E	6km	M2.5
2025年11月25日18時01分	熊本県阿蘇地方 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：出雲市平田町*, 浜田市殿町*, 益田市常盤町*, 大田市仁摩町仁万*	32° 59.8' N	131° 06.4' E	9km	M5.8

・地点名の後に\*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

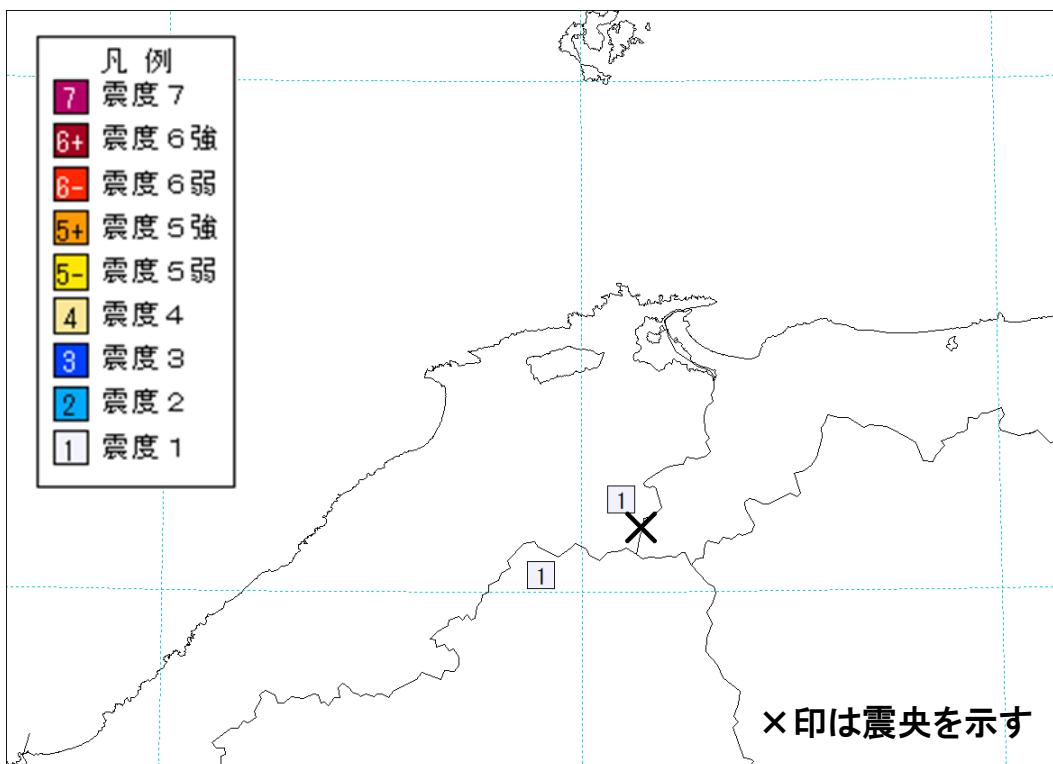
## 【観測点震度分布図】

2025年11月12日21時27分 島根県東部



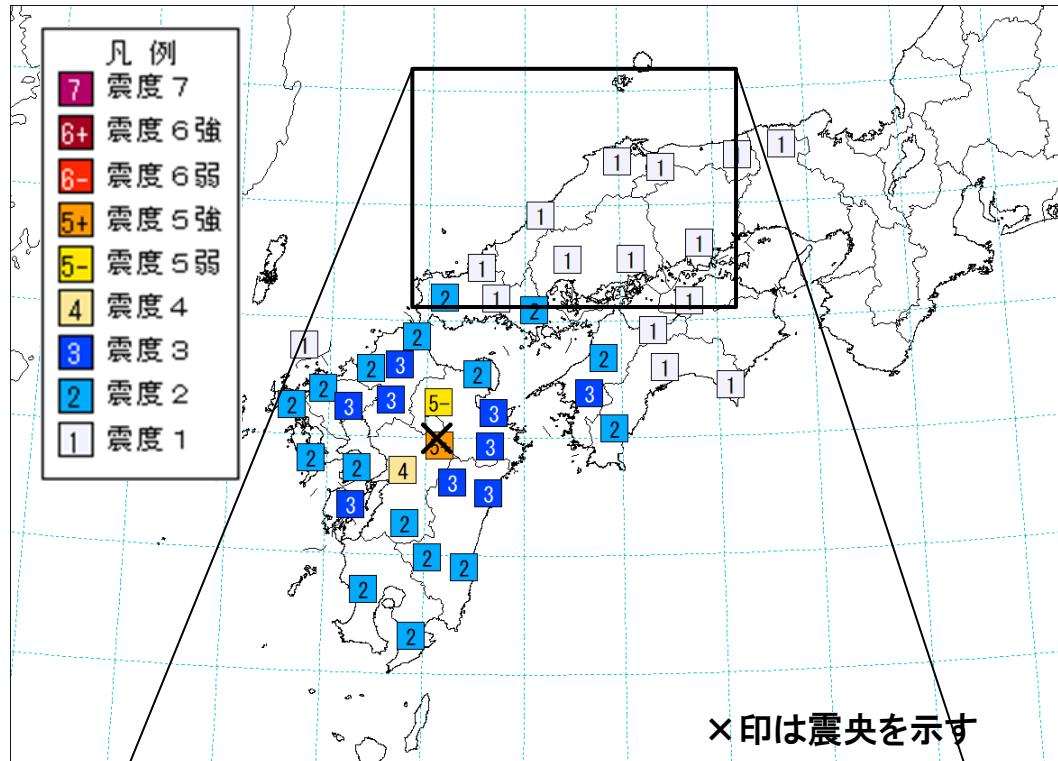
## 【観測点震度分布図】

2025年11月20日10時35分 島根県東部



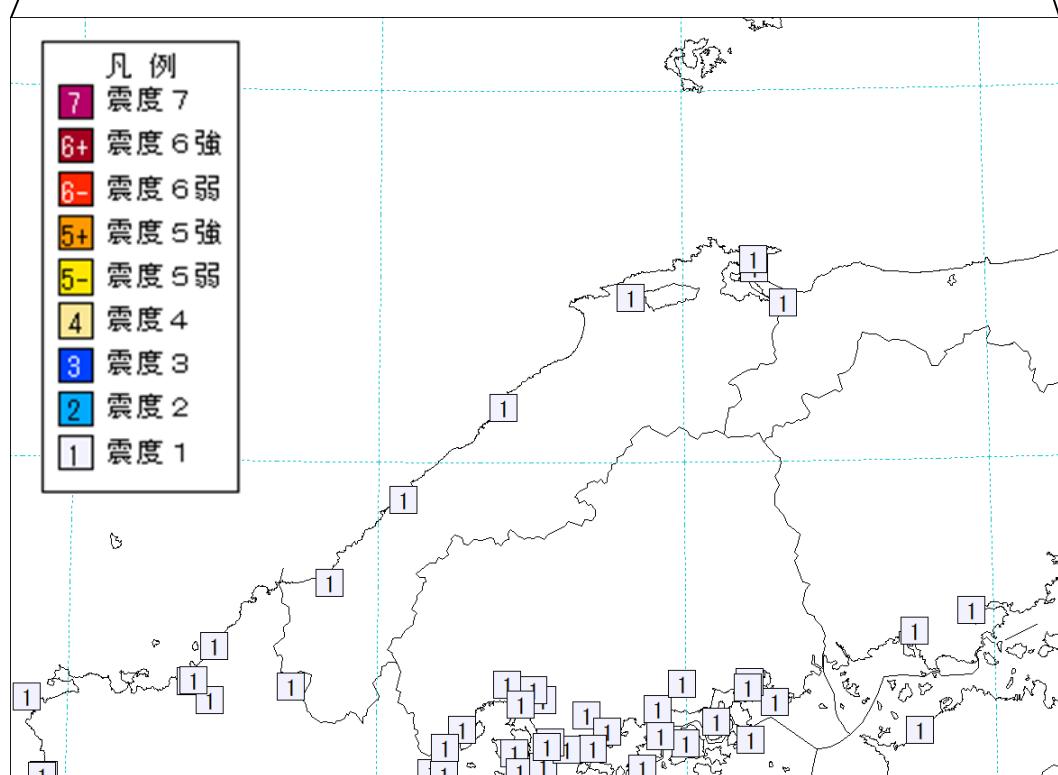
# 【地域震度分布図】

2025年11月25日18時01分 熊本県阿蘇地方



# 【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



# 地震一口メモ

## 南海トラフ地震臨時情報について

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震で、過去には、想定震源域のほぼ全域で同時に地震が発生したことがあるほか、東側半分の領域で大規模地震が発生し、時間差をもって残り西側半分の領域でも大規模地震が発生したこともあります（図1）。



図1 南海トラフ地震の歴史と特徴

（気象庁HP※左図：Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません）

来年は昭和南海地震（1946年12月21日）の発生から80年となる節目の年です。また、昭和東南海地震（1944年12月7日）と昭和南海地震はどちらも12月に発生しているということもあり、今月号（12月発行）では、南海トラフ地震に対する備えの一つとして、南海トラフ地震臨時情報（以下、「臨時情報」という。）について解説します。

臨時情報は、南海トラフ沿いの想定震源域で一定規模以上の地震が発生した場合等に、続けて大規模地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合に発表する情報です。臨時情報を発表する現象は図2の3ケースで、先発地震の発生場所や規模等によって（巨大地震警戒）や（巨大地震注意）等のキーワードを付して発表します（図3）。

昨年8月8日16時42分、南海トラフ地震の想定震源域内で発生した日向灘の地震（深さ31km、マグニチュード7.1）により、気象庁は同日19時15分に令和元年5月31日の運用開始以降、初めて臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。

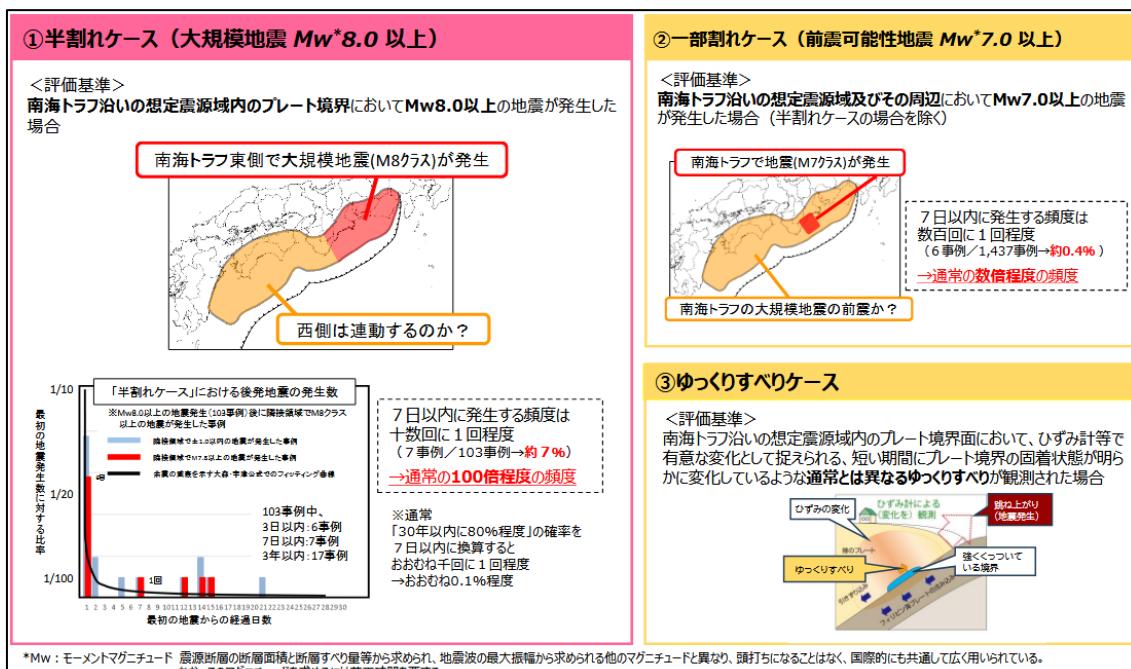


図2 臨時情報が発表される現象（南海トラフ地震臨時情報防災対応ガイドライン概要版より）

# 地震一口メモ

## 南海トラフ地震 臨時情報

キーワード	調査中	■ 南海トラフ沿いで観測された異常な現象と南海トラフ地震との関連性について調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ■ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
	巨大地震警戒	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において Mw8.0 以上の地震が発生したと評価した場合
	巨大地震注意	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において Mw7.0 以上、Mw8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で Mw7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ 南海トラフ沿いの想定震源域のプレート境界面でひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすぺりが観測されたと評価した場合
	調査終了	■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

図3 臨時情報の発表条件・キーワード（気象庁・内閣府作成リーフレット「南海トラフ地震-その時の備え-」より）

※Mw：モーメントマグニチュード 震源断層の面積とすべり量等から求められ、地震波の最大振幅から求められる他のマグニチュードと異なり、頭打ちになることはなく、国際的にも共通して広く用いられている。なお、このマグニチュードを求めるには若干時間が必要です。

臨時情報発表時には、政府や自治体などから呼び掛けられる、臨時情報のキーワード（巨大地震警戒、巨大地震注意または調査終了）に応じた防災対応（図4）をとることが大切です。なお、既に発生した地震に伴う津波警報等が発表されている地域では、津波への防災行動を最優先とし、避難情報に留意するとともに警報が解除されるまで安全な場所にとどまり続けてください。

南海トラフ地震はもしかしたら明日にも起こるかもしれません。南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、南海トラフ地震発生の可能性の相対的な高まりについてお知らせする臨時情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。そのため、「日頃からの地震への備え」（図5）を実施することが大切であり、大きな地震が起きた時はまずは自分の身を守る行動を取りましょう。



図4 「臨時情報」のキーワードに応じた防災対応の概要

(気象庁HP : ※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません)



図5 日頃からの地震への備えの概要

## 参考：気象庁ホームページ

- 知識・解説>南海トラフ地震について  
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/index.html>
- 知識・解説>「南海トラフ地震に関する情報」について  
[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/info\\_criterion.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/info_criterion.html)